

## 同窓会便り 還暦の宴

中澤正雄

(四十八回卒)

新年明けましておめでとうござい  
ます。本年還暦を迎える四十八回普  
通科卒の同窓会を行いました。月例  
の会合を行っていているメンバーを中  
心に昨秋より住所の確認等準備を進  
めました。特に櫻井康博君、水越正一君  
には献身的に開催準備に時間を割い  
て頂きました。月例会での作業も順  
調に進み無事一月二日開催の運びと  
成りました。

当日、同期である原篤範校長先生  
に母校見学の案内をして頂きました。  
懐かしい学びやは殆どなくエアコン  
の有る今風の教室を見、互いの名を  
名乗りあいながら、ありし日の校舎  
を懐に浮かべました。母校見学終了  
後、恩師の高濱慶弘先生と杉山克夫  
先生の待つ宴会場に席を移し懇親会  
に入りました。國友正善先生は先客  
の同窓会が有り残念ですが欠席と成  
りました。記念撮影は学年全体とク  
ラス毎と二度撮りました。最初に山  
口和久発起人代表の挨拶で先生方を  
含め六十四名の参加者の報告が有り、  
又、雨甲斐千文先生と九人の亡くな  
られた同窓生の冥福を祈りました。  
原校長の挨拶では本年母校が創立九  
十周年を迎える節目の年であり、記  
念行事への協力の依頼が有りました。  
恩師の挨拶では「最高の教え子達で  
あった。」との身に余るお誉めの言葉  
を戴き、更に第二の人生の素晴らし  
さとその歩み方を披露戴きました。

佐藤千明君の乾杯で開宴と成りま  
した。当初クラス毎のテーブルを設け  
テーブル毎の紹介を予定しましたが、  
開宴と同時に至る所で懇親の輪が広  
がりお開きまで主催者の仕事は必要  
ありませんでした。「胸章を付けるべ  
き。」とのアイデアを採用したのは大  
正解でした。四十有余年の歳月は、  
紅顔の美少年をももの見事に老人の  
名役者に変身させていました。校長  
先生の多い事、小、中、高。昔のまま  
の気の優しい小学校の校長二人。懐  
かしい白黒写真をアルバムから抜いて  
来た大学教授。らしくない歯科医師、  
らしい医師。公務員も多かった。茨城  
県警、県職員、市職員。海外勤務の  
長かった人。都会に住む人。茨城弁を  
忘れたふりをする人。昔の体型と逆  
に成った人。風貌の全然変わらない  
弁護士。歌の上手な銀行員。白髪の  
人、薄い人、白髪で薄い人。やはり同  
世代で在った憧れの女性八人。皆本  
当に頑張って来たのだらうな。

あつと言つう間の出来事でした。会  
話の途絶える事も無く、お互いの長  
い時間の空白がこの短い時間ですぐ  
に埋まってしまふ。わずか三年間のク  
ラスメイトがこれ程の絆で結ばれてい  
たのは大変不思議でした。それはいつ  
もの月例の時にも感じています。高  
校時代が如何に印象深い特異な時で  
あったかを今更ながらに感じていま  
す。貴重な瞬間を最も有意義に共に  
過ごした仲間達でした。二次会にも  
三十四名の方に参加をして頂きました。  
最後に、次回は平成二十八年  
(オリンピックの開催年)秋の再会を  
約束し閉会としました。